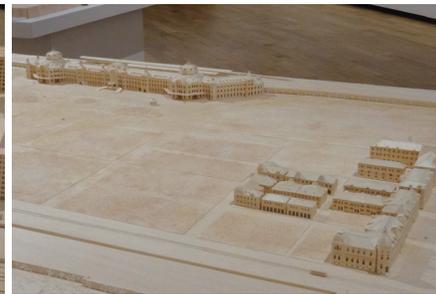




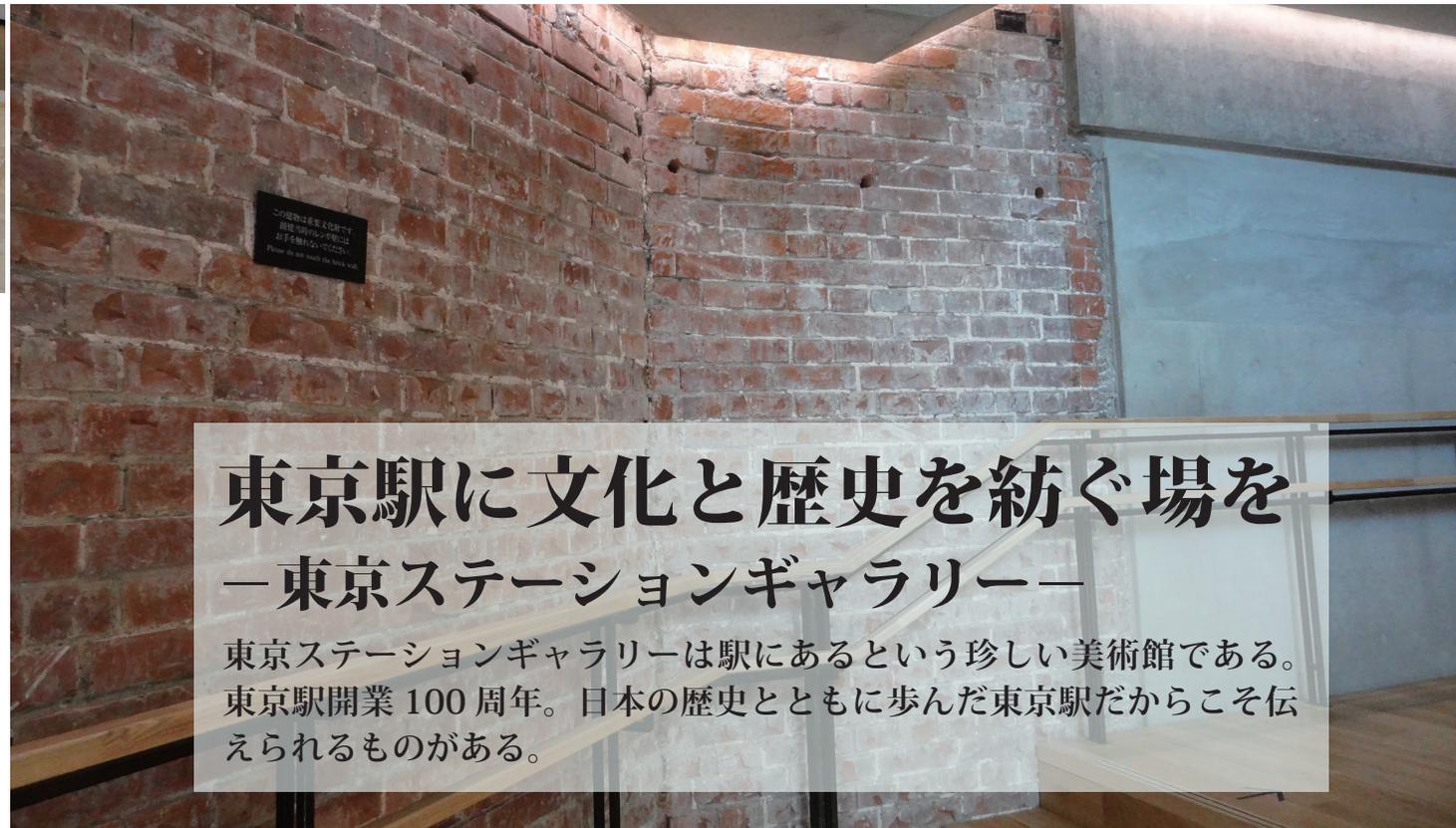
2014年の東京駅付近



1964年の東京駅付近



1914年の東京駅付近



東京駅に文化と歴史を紡ぐ場を —東京ステーションギャラリー—

東京ステーションギャラリーは駅にあるという珍しい美術館である。東京駅開業100周年。日本の歴史とともに歩んだ東京駅だからこそ伝えられるものがある。

と。
1914年の建設当時のジオラマは東京駅と三菱村と呼ばれるいくつかの建物しかなく、ほとんどが原っぱ。現在では考えられないほどに殺風景だ。そこから50年後の1964年のジオラマは、美観地区として高さ31mに制限されたビルが整然と立ち並んでいる。この時の東京駅は現在の形とは異なる2階建て。東京大空襲の際に3階の屋根が壊れたため戦災復興による補修によって2階建ての形になった。1946年にはこの形の東京駅になっていたため、東京駅の歴史としてはこの2階建ての姿の方が長い。そして2014年のジオラマ。復原を行ったため駅舎は創建当時の姿になっているが、東京駅自体は丸の内の高層ビルにより囲まれぼんやりした状態だ。50年前は31mに制限されていたが、JR東日本が東京駅の空中権を売却したことにより高層化していった。またJR東日本は東京駅の空中権を売却したお金を駅舎復原の予算に充てたという。もうひとつの目玉は、天井から吊られた東京駅の駅体と地下部分の模

文化発信地としての東京駅

昨年12月20日に開業100周年を迎えた東京駅。それを記念して東京駅丸の内駅舎内にある東京ステーションギャラリーでは、2014年12月13日(土)～2015年3月1日(日)まで「東京駅100年の記憶」展が開催された。

東京ステーションギャラリーは1988年に「駅を単なる通過点ではなく文化を発信する地点としたい。」という思いのもと、丸の内駅舎の二階を改造して誕生。東京駅の歴史を体現するレンガ壁の展示室のある美術館として人々に親しまれ、ジャンルを問わず105本の展覧会を開催。2006年に東京駅の復原工事により一時休館したが、2012年10月に復原工事を終えた駅舎内で新たなスタートを切った。

東京駅100年の記憶

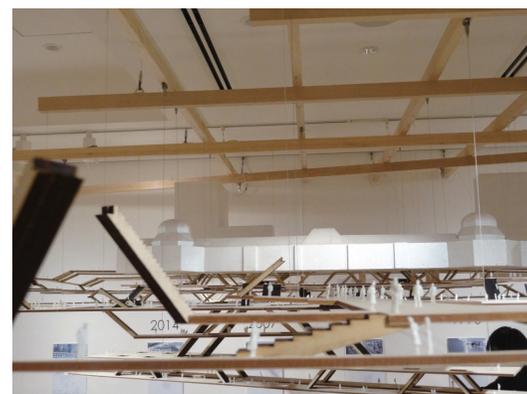
そんな東京ステーションギャラリーが今回、この美術館のアイデンティティに関わる展覧会と考えているのが「東京駅100年の記憶」展

型。現在の東京駅、大手町駅、二重橋駅の全てのホームや通路部分を200分の1スケールで再現している。まるで立体透視図の様で、いかに東京駅が広くひとつの街として成り立っているのを知ることができる。

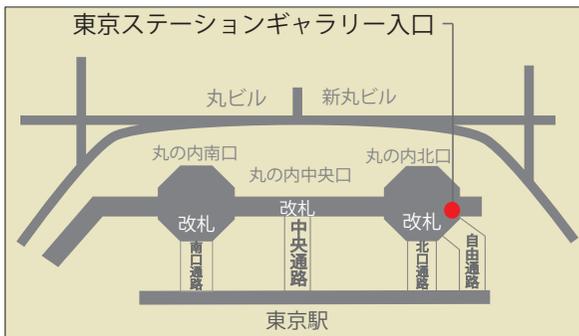
歴史を感じる壁面

東京ステーションギャラリー内では、3階展示室から2階への階段、2階展示室でオリジナルの東京駅、100年前そのままのレンガの壁を間近で見ることが出来る。鉄骨も少し汚れたレンガも黒く焼けた木レンガも当時のもの。東京駅の歴史を触れて感じられる貴重な場所だ。

一日数十万もの人々が行き交う東京駅の中にあるユニークな美術館、東京ステーションギャラリー。3月21日(土)からは、北陸新幹線開業記念として、「富山県立近代美術館コレクション」からピカソと20世紀美術展が開催される。通過点となりがちな「駅」だが、たまには立ち止まって駅舎の中の美術に浸ってみたいかだろうか。



だ。1914年の創建から、戦争での被災、終戦後の修復、建て替え計画、創建当時の姿への復原、そしてこれから。東京の玄関口である東京駅がこれまで歩んできた100年の歴史を振り返る企画展となっている。今回の展覧会の目玉は丸の内同じ場所を時代別に再現した2m四方のジオラマ。鹿児島大学、京都工芸繊維大学、日本大学の建築学科の学生がそれぞれ制作したのだという。このジオラマは非常に精巧に作成されており、すべて図面を取り寄せ構造から調査した上で制作したこの



東京ステーションギャラリー

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-9-1

【TEL】03-3212-2485

【開館時間】10:00 - 18:00

※1月2日を除く金曜日は20:00まで

※入館は閉館30分前まで

【休館日】月曜日(祝日の場合は火曜日)

※および展示替期間は休館

【URL】<http://www.ejrcf.or.jp/gallery/>